

国立教育政策研究所教育課程研究指定校事業研究協議会

思考力，判断力，表現力等を育成し，
主体的，創造的な学習を実現する指導方法とその評価
－「音楽と自分との関わり」に着目した音楽科の授業の在り方－

金沢大学人間社会学域学校教育学類附属中学校
鏡千佳子

1

1. 研究主題設定に当たって
2. 具体的な取組
 - (1) 1, 2年生の実践
 - (2) 3年生の実践
3. 成果と課題

2

1. 研究主題設定に当たって

＜本校の生徒の現状＞

新しいことを学ん
だり知ったりする
ことに意欲的！

生活や社会，自分
とどのような関わ
りがあるの？



授業で学んだ内容が，生活や社会，自分にとって意味のある
存在であることに気付くことができる授業を行う必要がある

3

1. 研究主題設定に当たって

＜研究主題＞

思考力，判断力，表現力等を育成し，
主体的，創造的な学習を実現する指導方法とその評価
－「音楽と自分との関わり」に着目した音楽科の授業の在り方－

＜研究内容＞

・授業で学んだ内容が，生徒自身のその後の学習や生活とどのよう
に関わり，どのような意味を持つのかを考える授業の開発

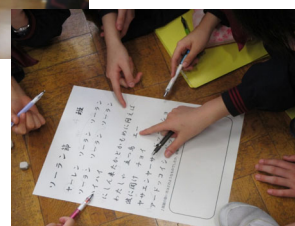
・授業のねらいが達成できているかを的確に見取る評価方法の開発

4

2-（1）具体的な取組（1年生の実践）

第1学年 歌唱、鑑賞	・日本の民謡に親しみ、よさを味わおう ・教材「ソーラン節」 (副教材「会津磐梯山」「南部牛追い歌」「山中節」) アニメの歌、日本歌曲、合唱曲) ・新学習指導要領との関連 A表現:ア、イ(イ)、ウ(ア) B鑑賞:ア(イ)、イ(イ) ・生徒の思考・判断のよりどころとなる音楽を形づけている要素 「音色」「リズム」 ・授業内容 一時目:様々な歌を歌ったり、それらの背景を学んだりしながら、曲種に応じた発声があることを知り、曲にふさわしい歌い方を探る。 二時目:民謡保存会の方々から民謡の歌い方を学ぶ。 三時目:日本各地の民謡の特徴から民謡の特徴や背景を学ぶ。
---------------	--

2-（1）具体的な取組（1年生の実践）



2-（1）具体的な取組（2年生の実践）

第2学年 創作・器楽	・情景を表す旋律を創作しよう ・新学習指導要領との関連 - A表現(創作):ア、イ(ア)、ウ (器楽):ア、イ(イ)、ウ(ア) ・生徒の思考・判断のよりどころとなる音楽を形づくっている要素 「音色」「旋律」 ・授業内容 - 一 時 目 : 筆の様々な奏法を学び、平家物語「扇のり」から与一の心情や緊迫した場面を表すのどの奏法がふさわしいのかを考え、創作する。 - 二 時 目 : 奏法を試しながら旋律を創作する。 - 三 時 目 : 創作した作品を聴き合い、評価する。
-----------------------	--

2-（1）具体的な取組（2年生の実践）



○紙俵を作ろう

6

2-（2）具体的な取組（3年生の実践）

第3学年
歌唱

- ・「心の歌」を歌い継ごう
- ・教材名「花の街」江間章子/作詞 團伊玖磨/作曲
（副教材）「花」武島羽衣/作詞 滝廉太郎/作曲
- ・新学習指導要領との関連
A表現：ア、イ（ア）、ウ（ア）
- ・生徒の思考・判断のよりどころとなる音楽を形づくっている要素
「音色」「旋律」
- ・授業内容
一時目：「花」「花の街」のそれぞれの特徴をつかみ、歌う。
二時目：曲に込められた思いを汲み取り、ふさわしい歌唱表現を考え、歌う。

※「心の歌」とは、新学習指導要領で定められている共通教材のことを指しており、教科書（教育芸術社）では「心の歌」として取り扱われている。

9

2-（2）具体的な取組（3年生の実践：一時目）

＜学習内容＞

- ・小学校からの既習の共通教材を数曲歌う。
- ・「花」「花の街」を歌う。
- ・「花」の軽快なリズムや「花の街」の旋律の流れの美しさを感じて歌う。
- ・作詞者、作曲者について学ぶ。
- ・それぞれの曲の特徴をつかみ、歌う。

＜評価規準＞

- ・「心の歌」の歌詞の内容や曲想に関心をもち、曲にふさわしい音楽表現を工夫して歌う学習に主体的に取り組もうとしている。

【音楽への関心・意欲・態度】

《新学習指導要領との関連》

- ア 歌唱表現に関わる知識や技能を得たり生かしたりしながら、曲にふさわしい歌唱表現を創意工夫する。

10

2-（2）生徒アンケート（本校3年生151人）：一時間目終了後

○「心の歌」を学校で学ぶ必要はあると思いますか。

1. 必要
2. どちらかといえば必要
3. どちらかといえば必要ない
4. 必要ない

必要・どちらかといえば必要… 86. 7%

必要ない・どちらかといえば必要ない…13. 3%

11

なぜ「心の歌」が教科書に掲載され、学ぶのだろう…

- ・正直よくわからない
- ・歌のスキルの習得
- ・知っていたらカラオケのレパートリーが増える
- ・知らないで恥ずかしいくらい有名な曲だから
- ・作曲家があまり有名じゃない人はお金がかかりにくいから
- ・教科書の編成委員が好きな曲だから
- ・古い文化をよき文化として今の若者に押し付けるのは嫌だ。文科省の人はなぜ古い歌を入れるのかな
- ・日本の伝統的な歌だから
- ・日本人として知っておくべき歌だから
- ・感性を豊かにするため
- ・心をおだやかにするため

12

金銀などとはさかみ、ゆくりにかたがたつてゐるなりや
や強弱 戦争は教員には、最も大切なことだ。でんか
が、戦争をやるに必要なのは、戦争の教員による
計にはなく、人の心からくるものだ。
自分の置かれていた町がこたえたりとないにより
なして、あんなにもうまい思いをして負けた戦争
— 人間の思いが勝って、それをいふことができた。
気持ちよ、ゆかりに消えてたい。

[illegible]

平和の美しさを描くことによって、戦争の悲慘さを伝えるためのものだと思います。戦時中に聴かれた歌であった軍歌とは対照的なやり方としたリズムとメロディーで、それが表されていると思います。作者が歌えなかった戦争に対するこの悲傷さを伝えるため、やり方として気持よく平和を褒めるように歌えようとしたと思います。

2-（2）生徒アンケート(本校3年生151人):授業後

○「心の歌」を学校で学ぶ必要はあると思いますか。

1. 必要
2. どちらかといえば必要
3. どちらかといえば必要ない
4. 必要ない

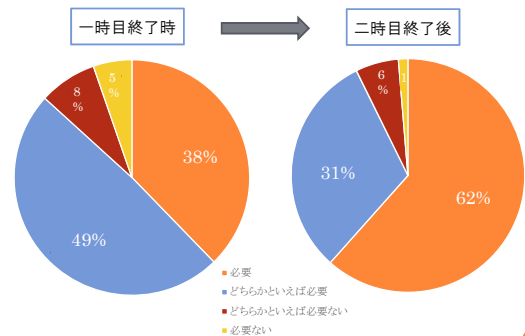
必要・どちらかといえば必要… 92. 7%
必要ない・どちらかといえば必要ない… 7. 3%

(一時目の授業後)

必要・どちらかといえば必要… 86. 7%
必要ない・どちらかといえば必要ない… 13. 3%

17

2-（2）生徒アンケート(本校3年生151人)



18

生徒の記述より（1. 必要を選んだ生徒）

— 主に学習との関わり
— 主に生活との関わり

「心の歌」には日本では感じることのできない四季の美しさや、歴史などについて感じてもらえ、我が国を知ることにも必要である。現代では少なくなったフォークが、異なったりしてはいるが同じ歌を歌えないか、心の歌を学校で「学ぶ」ことで歌うことが出来る。また、これはいっしょに学ぶ中で得られているので、世代を超えて楽しむことが出来る。

授業で実際に歌って、作詞者、作曲家の思いや、その時代の背景が深く関連していることが分かった。そこから、自分の年代や様々な世代に耳を届けて、気持ちを伝えることが出来る。

聴いてみればいろいろな曲というのでも多くありますが、聴いてみれば、これらも曲を知ると、歴史は少なくて済むから、また先人たちの想いの込められた曲は大切にしたいと改めて感じるから。

19

生徒の記述より(1. 必要, 2. どちらかといえば必要を選んだ生徒)

心の歌を歌うことは、昔の人の気持ちを考えることにつながる。その中で、必要だと思う。戦後の国民のつらさを理解できるのでも、戦争の悲惨さが分かると思う。

心の歌は歴史など他教科と結びつくところもあるし、心の歌からいろいろな思いを受け取り、考え、学ぶことで自分の視野が広がり、心が豊かになったりすると思うから。

歌から、日本のかつての様子を知り、状況を汲み取るため。歴史についての見聞をより豊かにする。昔の人の考え方が分かって、とて今と比べての差を知る。歴史、文化が大事だ。

20

生徒の記述より(1. 必要, 2. どちらかといえば必要を選んだ生徒)

この前までは必要ない, と思っていたが, 「花の街」に込められた作者の思いを知った
ことで気持ちが変った。作者が「必要ない」と思っていることを様々な角度から、これか
ら生きていく私にとっては大切なものかもしれない、と気付かされました。心の歌の歌詞
の意味について学ぶべきだと私は思いました。

学習する前は必要ないと思っていたが、
学習したことで戦争の寂しさとその時に生きた人々の思いを
知ることで、必要から。

主に学習に関わる記述は43%
主に生活に関わる記述は49%

21

生徒の記述より (3. どちらかといえば必要ないを選んだ生徒)

日本人として大切なことを伝えるために、この歌を教科書に載せてほしい。これは最近のJ-POPでも同じことだ。POPの中でも日本として大切なことを伝えるために、
この歌を教科書に載せてほしい。

心の歌として正解の答えは、様々。歌に込められた
思い。どうやらただただいろいろな種類の曲を教科書に
載せるべき。

22

生徒の記述より(3. どちらかといえば必要ないを選んだ生徒)

○「心の歌」を学校で学ぶ必要はあると思いますか。

1. 必要 2. どちらかといえば必要 3. どちらかといえば必要ない 4. 必要ない

理由

人それぞれ好きな曲、好きなリズム、また音楽は心が通じます。
先日歌った「花の街」は、歌詞やメロディから感じるものが多くあ
り、思いました。ですからその曲を学ぶべきなのだと思います。
この曲にもメッセージは多くあります。例として今はかりの雨や
過去の名曲を使えば、みんな知っている曲をより多く学べます。

23

3. 成果と課題

- 授業で学んだ内容が、生徒自身のその後の学習や生活とど
のように関わり、どのような意味や価値を持つのかを考える授
業実践を行うことができた。
- 「学校で共通教材を学ぶ必要がある、どちらかといえば必要
である」と考えている生徒が、授業実践後、増えた。
(実践前86.7%, 実践後92.7%)

- 歌唱表現の授業としては不十分な面が見られた。
- 評価の工夫が不十分であった。

24

3. 成果と課題

- 歌唱表現の授業としては不十分な面が見られた。



- ・歌に対する思いをどのように表現に生かしていくのかについて研究を行っていく必要がある。

25

3. 成果と課題

- 評価の工夫が不十分であった。

- ・生徒が本時の目標を達成できているかを評価。
授業者: 行動観察, ワークシート分析
参観者: 座席表を基に行動観察



- ・授業者と参観者とのズレや一致を見て, 評価の適正を調べ, 評価の研究を進めていく。

26